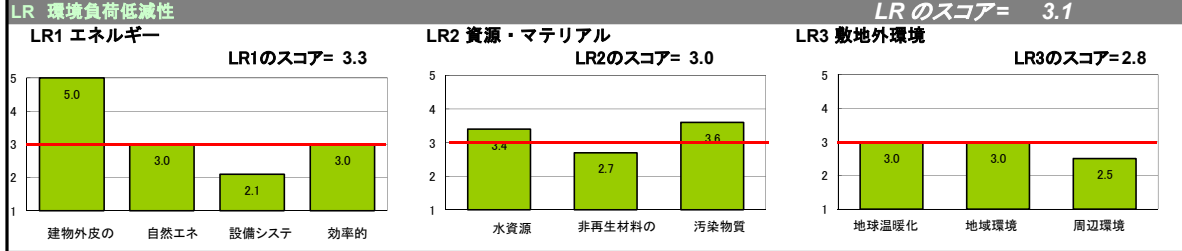
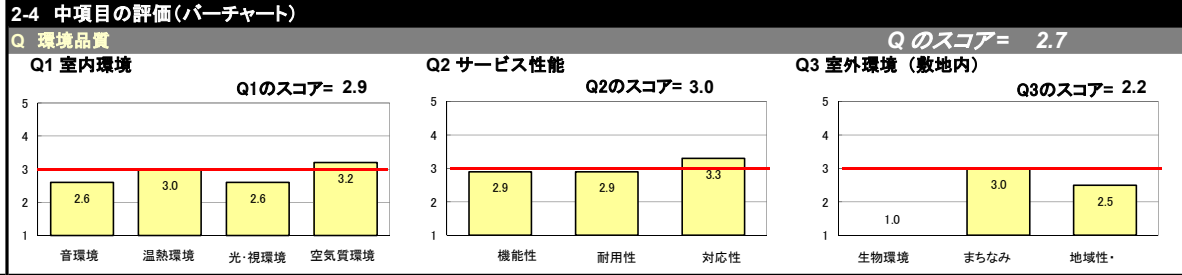
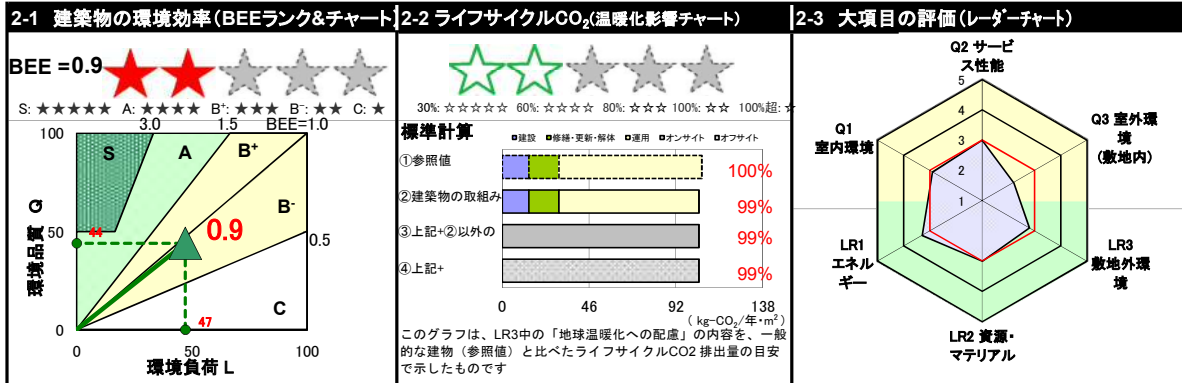


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)三河安城オフィスビル	階数	地上4F
建設地	愛知県安城市三河安城南町一丁目	構造	S造
用途地域	商業地域、準防火地域	平均居住人員	200 人
気候区分	6地域	年間使用時間	3,360 時間/年
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2018年9月 予定	評価の実施日	2018年1月15日
敷地面積	1,572 m ²	作成者	西野 泰秀
建築面積	734 m ²	確認日	2018年1月18日
延床面積	2,803 m ²	確認者	西野 泰秀



3 重点項目	
<p>①地球温暖化への配慮</p> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.0</p>	<p>③敷地内の緑化</p> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em;">2.5 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em;">0.0 %</p>
<p>②資源の有効活用</p> <p style="font-size: 2em; color: green;">2.8</p>	<p>④地域材の活用</p> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用建物全体・共用部(脱着・宿泊) 住居・宿泊部分									
配座項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄		建物全体		共用建物全体		共用部(脱着・宿泊)		住居・宿泊部分		全体	
		評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質													2.7
Q1 室内環境													2.9
1 音環境													2.6
1.1 室内騒音レベル				2.6	0.15							2.6	
1.2 遮音				3.0	0.40								
1 開口部遮音性能				2.2	0.40								
2 界壁遮音性能				3.0	0.60								
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				1.0	0.40								
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-								
1.3 吸音				3.0	0.20								
2 温熱環境													3.0
2.1 室温制御				3.0	0.35								
1 室温				3.0	0.50								
2 外皮性能				3.0	0.38								
3 ソーン別制御性				3.0	0.25								
2.2 湿度制御				3.0	0.38								
2.3 空調方式				3.0	0.20								
				3.0	0.30								
3 光・視環境													2.6
3.1 昼光利用				2.6	0.25								
1 昼光率				1.8	0.30								
2 方位別開口				1.0	0.60								
3 昼光利用設備				-	-								
3.2 グレア対策				3.0	0.40								
1 昼光制御				3.0	0.30								
3.3 照度				3.0	1.00								
3.4 照明制御				3.0	0.15								
				3.0	0.25								
4 空気環境													3.2
4.1 発生源対策				3.2	0.25								
1 化学汚染物質				4.0	0.50								
4.2 換気				4.0	1.00								
1 換気量				3.3	0.30								
2 自然換気性能				3.0	0.33								
3 取り入れ外気への配慮				4.0	0.33								
4.3 運用管理				3.0	0.33								
1 CO ₂ の監視				1.0	0.20								
2 喫煙の制御				1.0	0.50								
Q2 サービス性能													3.0
1 機能性													2.9
1.1 機能性・使いやすさ				2.9	0.40								
1 広さ・収納性				3.3	0.40								
2 高度情報通信設備対応				4.0	0.33								
3 バリアフリー計画	独自			3.0	0.33								
1.2 心理性・快適性				3.0	0.33								
1 広さ感・景観 (天井高)				2.3	0.30								
2 リフレッシュスペース				4.0	0.33								
3 内装計画				2.0	0.33								
1.3 維持管理				1.0	0.33								
1 維持管理に配慮した設計				3.0	0.30								
2 維持管理用機能の確保				3.0	0.50								
2 耐用性・信頼性													2.9
2.1 耐震・免震・制震・制振				2.9	0.31								
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.48								
2 免震・制震・制振性能				3.0	0.80								
2.2 部品・部材の耐用年数				3.0	0.20								
1 躯体材料の耐用年数				3.8	0.33								
2 外壁仕上り材の補修必要間隔				3.0	0.23								
3 主要内装仕上り材の更新必要間隔	②			5.0	0.23								
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				4.0	0.09								
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				3.0	0.08								
6 主要設備機器の更新必要間隔				5.0	0.15								
2.4 信頼性				3.0	0.23								
1 空調・換気設備				1.5	0.19								
2 給排水・衛生設備				-	-								
3 電気設備				3.0	0.25								
4 機械・配管支持方法				1.0	0.25								
5 通信・情報設備				1.0	0.25								

②

②

3 対応性・更新性				3.3	0.29				3.3
3.1 空間のゆとり				4.0	0.31				
1 階高のゆとり			階高が3.8m	4.0	0.60				
2 空間の形状・自由さ			壁長さ比率0.26(根拠資料参照)	4.0	0.40				
3.2 荷重のゆとり				3.0	0.31				
3.3 設備の更新性				3.0	0.38				
1 空調配管の更新性		②		3.0	0.19				
2 給排水管の更新性				3.0	0.19				
3 電気配線の更新性				3.0	0.13				
4 通信配線の更新性				-	-				
5 設備機器の更新性				3.0	0.25				
6 バックアップスペースの確保				3.0	0.25				
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30				2.2
1 生物環境の保全と創出		独自③		1.0	0.30				1.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④		3.0	0.40				3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				2.5	0.30				2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④		3.0	0.50				
3.2 敷地内温熱環境の向上				2.0	0.50				
LR 建築物の環境負荷低減性									3.1
LR1 エネルギー				-	0.40				3.3
1 建物外皮の熱負荷抑制			BPImの値が0.78	5.0	0.30				5.0
2 自然エネルギー利用				3.0	0.20				3.0
3 設備システムの高効率化				2.1	0.30				2.1
4 効率的運用				3.0	0.20				3.0
集合住宅以外の評価				3.0	1.00				
4.1 モニタリング				3.0	0.50				
4.2 運用管理体制				3.0	0.50				
集合住宅の評価				-	-				
4.1 モニタリング				-	-				
4.2 運用管理体制				-	-				
LR2 資源・マテリアル				-	0.30				3.0
1 水資源保護				3.4	0.15				3.4
1.1 節水			節水型便器を使用(根拠資料参照)	4.0	0.40				
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60				
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.67				
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33				
2 非再生性資源の使用量削減				2.7	0.63				2.7
2.1 材料使用量の削減				3.0	0.07				
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.24				
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②	-	3.0	0.20				
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自	-	1.0	0.20				
2.5 持続可能な森林から産出された木材				2.0	0.05				
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	躯体と仕上材の分別が容易	4.0	0.24				
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.6	0.22				3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用			ほぼ全ての建材・接着材・塗料にF☆☆☆☆を使用	5.0	0.32				
3.2 フロン・ハロンの回避				3.0	0.68				
1 消火剤				-	-				
2 発泡剤(断熱材等)				3.0	1.00				
3 冷媒				-	-				
LR3 敷地外環境				-	0.30				2.8
1 地球温暖化への配慮		①		3.0	0.33				3.0
2 地域環境への配慮				3.0	0.33				3.0
2.1 大気汚染防止			燃焼機器を使用せず、大気汚染物質を全く排出しない	5.0	0.25				
2.2 温熱環境悪化の改善				2.0	0.50				
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.0	0.25				
1 雨水排水負荷低減		独自		3.0	0.25				
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.25				
3 交通負荷抑制		独自	管理用を含めた駐車場量を確保し、渋滞に配慮した位置に設置	4.0	0.25				
4 廃棄物処理負荷抑制				2.0	0.25				
3 周辺環境への配慮				2.5	0.33				2.5
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40				
1 騒音		独自		3.0	0.33				
2 振動		独自		3.0	0.33				
3 悪臭				3.0	0.33				
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				1.6	0.40				
1 風害の抑制				1.0	0.70				
2 砂塵の抑制				-	-				
3 日照障害の抑制				3.0	0.30				
3.3 光害の抑制				3.7	0.20				
1 屋外照明及び屋内照明のつらみに漏れる光への対策			光害対策チェックリストを一部満たし、且つ屋外広告照明無し	4.0	0.70				
2 昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30				

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.0
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.0	0.10	
② 資源の有効活用				2.8
Q2-2	耐震性・信頼性	2.9	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.3	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.7	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	外構緑化:2.5%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用				1.0
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■ 重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称)三河安城オフィスビル

計画上の配慮事項	
総合	エネルギーの高効率化を考慮した標準的な設計とした。
Q1 室内環境	ほぼ全ての建材・接着剤・塗料にF☆☆☆☆を使用する設計とした。 執務スペースの照度確保に配慮する設計とした。
Q2 サービス性能	耐久性のある内外装材を使用し、ゆとりのある空間設計とした。
Q3 室外環境(敷地内)	周辺環境や景観を損なわないように配慮した設計とした。
LR1 エネルギー	外皮性能の向上と一次エネルギー消費量を抑えることができるような設計とした。
LR2 資源・マテリアル	建物を解体した際のリサイクルを考慮し、躯体と仕上材の分別がし易いように配慮する設計とした。
LR3 敷地外環境	管理用を含めた駐車場量を確保すると共に、渋滞解消に考慮し、敷地出入口位置とに配慮する設計とした。
その他	特になし。